

藤

中学校

評価結果:①そう思う ②だいたいそう思う ③あまりそう思わない  
④そう思わない ⑤わからない・無答

領域	対象	質問項目	評価結果	評価・考察
学校教育目標・教育方針	教職員	①私は、学校教育目標や教育方針を理解し、達成できるよう努めている。	<p>59% 41% 0% 0% 0%</p>	<p>評価結果についての分析・課題</p> <p>◎肯定的評価 教職員…100% 保護者… 72% 地域… 88% ・保護者の肯定的評価は昨年度とほぼ同様であり、学校教育目標をさらに浸透させていくことが今後の課題である。</p>
	生徒	①私は、学級目標や個人目標を達成するために努力している。	<p>49% 46% 5% 0% 0%</p>	<p>課題解決への方策</p> <p>・保護者が来校する機会(学校公開日や行事等)を活用し、学校の情報を積極的に発信していく。また、学校だよりやHP等で学校教育目標や教育方針を適宜発信し、浸透させていく。</p>
	保護者	①私は、学校教育目標や教育方針を知っている。	<p>13% 59% 18% 10% 0%</p>	<p>学校関係者評価委員会による評価</p> <p>・教職員・生徒ともに肯定的評価が高く、よい状況にあると感じる。地域への浸透については、学校からの配信文書やメールなどに常に載せるなど、目にする機会を増やすように工夫すればよいのではないか。</p>
	地域	①私は、学校教育目標や教育方針を理解している。	<p>44% 44% 11% 0% 0%</p>	

藤	中学校	評価結果:①そう思う ②だいたいそう思う ③あまりそう思わない ④そう思わない ⑤わからない・無答
---	-----	--

領域	対象	質問項目	評価結果	評価・考察	
学級経営	教職員	②私は、生徒のよさや可能性を發揮できる学級経営を行っている。	<p>0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%</p> <p>■① ■② ■③ ■④ ■⑤</p>	評価結果について の分析・課題	◎肯定的評価 教職員…100% 保護者… 89% 地 域… 89% ・概ね肯定的な評価であった。「学級での生活が楽しい」と感じている生徒も94%となっており、生徒のよさや可能性を發揮できる学年・学級経営ができています。若手の職員が増えているため、やり方に不安をもっている教員もいる。
	生徒	②私は、学級での生活が楽しいと感じている。	<p>0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%</p> <p>■系列1 ■系列2 ■系列3 ■系列4 ■系列5</p>	課題解決への方策	・よい実践をしている職員が、その経験を生かして、学級経営などの技術を継承するなど、学年間が同一歩調となるようにバランスをとっていく。
	保護者	②学校は、生徒のよさや可能性を發揮できる学級づくりをしている。	<p>0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%</p> <p>■① ■② ■③ ■④ ■⑤</p>	学校関係者評価委員会による評価	・教職員が自信をもって学級経営に取り組んでいるのはよいことである。また、学級での生活が楽しいと感じている生徒もとても多い。 ・技術の継承は、部会を増やしたり、他校と連携したりするのもよいのではないかと。また、それが市全体に広がっていくとさらによい。
	地域	②学校は、生徒のよさや可能性を發揮できる学級経営を行っている。	<p>0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%</p> <p>■① ■② ■③ ■④ ■⑤</p>		

藤 中学校

評価結果:①そう思う ②だいたいそう思う ③あまりそう思わない  
④そう思わない ⑤わからない・無答

領域	対象	質問項目	評価結果	評価・考察
学 習 指 導 ①	教職員	③私は、生徒が意見を主体的に発表したり、他者の意見を聞いたりして学びを深める授業を実践している。	<p>0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%</p> <p>■① ■② ■③ ■④ ■⑤</p>	<p>評価結果について の分析・課題</p> <p>◎肯定的評価 教職員…94% 生徒…89% 保護者…93% 地域…100% ・概ね肯定的な評価であった。しかし、教職員の評価は94%に対し、生徒の評価が90%に届いていないため、授業者の感覚に齟齬が生じている。</p>
	生徒	③私は、自分の意見を発表したり、友達の意見を聞いたりして、いろいろな考えにふれながら勉強している。	<p>0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%</p> <p>■① ■② ■③ ■④ ■⑤</p>	<p>課題解決への方策</p> <p>・市教委から出されている授業づくりチェックリストを活用し、学び合い学習を実践していく。教科部会を充実させ、主体的に意見交換ができる授業づくりを検討していく。</p>
	保護者	③学校は、生徒が自分の意見を発表したり、友達の意見を聞いたりして、いろいろな考えにふれる授業をしている。	<p>0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%</p> <p>■① ■② ■③ ■④ ■⑤</p>	<p>学校関係者評価委員会による評価</p> <p>・発表が苦手な生徒も当然いる中で、89%は良好な状況にあると思われる。授業参観をした際も、男女分け隔てなく学び合っている姿がみられた。継続していただきたい。</p>
	地域	③学校は、生徒が自分の意見を発表したり、友達の意見を聞いたりして、いろいろな考えにふれる授業をしている。	<p>0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%</p> <p>■① ■② ■③ ■④ ■⑤</p>	

藤	中学校	評価結果:①そう思う ②だいたいそう思う ③あまりそう思わない ④そう思わない ⑤わからない・無答
---	-----	--

領域	対象	質問項目	評価結果	評価・考察
学 習 指 導 ②	教職員	④私は、学習目標達成のために学習用端末や大型モニタ等のICT機器を活用して、わかりやすく工夫した授業を行っている。		評価結果について の分析・課題 ◎肯定的評価 教職員…86% 生徒…92% 保護者… 87% 地域…100% ・概ね肯定的な評価であったが教職員のICT活用能力をさらにあげていく必要がある。
	生徒	④私は、授業で学習用端末を使って、考えを深めたり広げたりして、積極的に授業に参加している。		課題解決への方策 ・専門的な知識・技能をもつICT支援員を有効活用していく。また、職員の活用能力に差があるので、教職員同士でも高め合えるように、活用の仕方を積極的に教え合っていく。
	保護者	④学校は、授業で学習用端末を使って、考えを深めたり広げたりする、授業を行っている。		学校関係者評価委員会による評価 ・生徒の肯定的評価が高い。授業を参観した限りでは、生徒はタブレットを使いこなしていると感じた。ICT機器は使うことが目的ではなく、教科や単元によって使い分けることが重要ではないか。「書く」ことも大切なので、すべてがICT機器ではなくバランスが大切だと思う。
	地域	④学校は、授業で学習用端末を使って、考えを深めたり広げたりする、授業を行っている。		

藤 中学校

評価結果:①そう思う ②だいたいそう思う ③あまりそう思わない  
④そう思わない ⑤わからない・無答

領域	対象	質問項目	評価結果	評価・考察
体力	教職員	⑤私(学校)は、体育の授業を中心として、体育的行事の充実や運動機会の確保に努め、生徒の体力向上を図っている。	<p>0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%</p> <p>□① □② □③ □④ □⑤</p>	<p>評価結果についての分析・課題</p> <p>◎肯定的評価                      教職員…100% 生徒…82%                      保護者…95% 地域…77%</p> <p>・概ね肯定的な評価であったが、生徒の評価が昨年度の85%から若干下がっている。体育の授業が好きな生徒は多いので、それ以外の場面で運動に親しみをもてる生徒を増やしていく。</p>
	生徒	⑤私は、体育や休み時間・部活動等で、校庭や体育館などいろいろな運動をして、体力をつけようと努力している。	<p>0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%</p> <p>□① □② □③ □④ □⑤</p>	<p>課題解決への方策</p> <p>・体育部会を中心に活動計画を立てること、授業以外での体力向上に生徒が取り組めるような方策を検討していく。</p>
	保護者	⑤学校は、体育の授業を中心として、体育的行事の充実や運動機会の確保に努め、生徒の体力向上を図っている。	<p>0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%</p> <p>□① □② □③ □④ □⑤</p>	<p>学校関係者評価委員会による評価</p> <p>・運動が苦手な生徒も当然いて、運動部でない生徒もいる中で、生徒の肯定的評価82%は良好な状況である。引き続き運動に親しみをもてる生徒を増やしてほしい。</p>
	地域	⑤学校は、体育の授業を中心として、体育的行事の充実や運動機会の確保に努め、生徒の体力向上を図っている。	<p>0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%</p> <p>□① □② □③ □④ □⑤</p>	

藤 中学校

評価結果:①そう思う ②だいたいそう思う ③あまりそう思わない  
④そう思わない ⑤わからない・無答

領域	対象	質問項目	評価結果	評価・考察
生徒指導①	教職員	⑥私は、生徒の生徒指導上の課題等に対して、組織的に、家庭と連携・協力しながら対応している。	<p>55% 45% 0%</p>	<p>評価結果についての分析・課題</p> <p>◎肯定的評価                      教職員…100% 生徒…84%                      保護者… 81% 地域…77%                      ・保護者の評価は、昨年の78%から若干上がったものの、教職員との評価の開きがあることがわかる。保護者の方が心配されている面に寄り添っていく必要がある。</p>
	生徒	⑥私は、いじめやトラブルなどの問題に対して、先生や保護者に相談し、一緒に解決しようとしている。	<p>43% 41% 12% 3%</p>	<p>課題解決への方策</p> <p>・保護者との確実な報告・連絡・相談・見届けを実践していく。また、問題に対しては組織的な対応が必要であるため、生徒指導・教育相談部会を有効に活用し、全教職員で全生徒を指導・支援という体制を整えていく。</p>
	保護者	⑥学校は、いじめやトラブルなどの問題に対して、組織的に、家庭等と連携・協力しながら対応している。	<p>19% 62% 14% 4%</p>	<p>学校関係者評価委員会による評価</p> <p>・保護者としては、子どもにトラブルや問題が特になければ学校の対応についてはわからないのではないかと思う。保護者や地域の肯定的評価が低いように見えるが、この質問に対し想像で答えるわけにもいかないのか、答えにくいと思っている家庭もあるのではないか。</p>
	地域	⑥学校は、生徒の生徒指導上の課題等に対して、組織的に、家庭等と連携・協力しながら対応している。	<p>33% 44% 22% 0%</p>	

藤 中学校

評価結果:①そう思う ②だいたいそう思う ③あまりそう思わない  
④そう思わない ⑤わからない・無答

領域	対象	質問項目	評価結果	評価・考察
生徒指導②	教職員	⑦私は、生徒のよさや可能性の伸長を図り、成長やつまずき、悩み等の理解に努めている。	<p>0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%</p> <p>■① ■② ■③ ■④ ■⑤</p>	<p>評価結果について の分析・課題</p> <p>◎肯定的評価 教職員…100% 生徒…93% 保護者…81% 地域…77% ・教職員と保護者・地域の評価に差がある。教職員の対応等について、保護者へ共有できていなかったり、理解が図られなかったりしたと考えられる。</p>
	生徒	⑦私は、自分のよさや可能性を伸ばしたり、友達との関わりを大切にしながら、自分の目標に向かって行動したりしている。	<p>0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%</p> <p>■① ■② ■③ ■④ ■⑤</p>	<p>課題解決への方策</p> <p>・学校の相談体制や生徒へのかかわりを、保護者に対し、積極的に発信していく。また、組織的な対応となるよう、教育相談のみならず、SC等の専門的な見地から助言いただくなど、組織の連携を強めていく。</p>
	保護者	⑦学校は、生徒のよさや可能性の伸長を図り、成長やつまずき、悩み等の理解に努めている。	<p>0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%</p> <p>■① ■② ■③ ■④ ■⑤</p>	<p>学校関係者評価委員会による評価</p> <p>・生徒の肯定的評価が90%を超えている。この結果からも、生徒はよく頑張っていると感じる。授業参観の際も、雰囲気よく話し合っている場面があった。その成果でもあると思う。</p>
	地域	⑦学校は、生徒のよさや可能性の伸長を図り、成長やつまずき、悩み等の理解に努めている。	<p>0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%</p> <p>■① ■② ■③ ■④ ■⑤</p>	

藤 中学校

評価結果:①そう思う ②だいたいそう思う ③あまりそう思わない  
④そう思わない ⑤わからない・無答

領域	対象	質問項目	評価結果	評価・考察
特別支援教育	教職員	⑧私は、一人一人の特性の理解に努め、家庭と連携・協力しながら道具や工夫を取り入れ、個に応じた指導方法を積極的に取り入れている。	<p>0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%</p> <p>□① □② □③ □④ □⑤</p>	<p>評価結果についての分析・課題</p> <p>◎肯定的評価                      教職員…93% 生徒…80%                      保護者…84% 地域…77%                      ・昨年度は教職員83%、保護者73%であったことから、今年度は大きく伸びたことがわかるが、教職員との差もあることから、保護者への理解が十分でなかったといえる。</p>
	生徒	⑧私は、苦手なことなどを、先生や保護者に相談し、一緒に解決しようとしている。	<p>0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%</p> <p>□① □② □③ □④ □⑤</p>	<p>課題解決への方策</p> <p>・昨年度と比較して、教職員の意識が高まったことはわかるが、保護者や地域への理解をより深めていくために、積極的に情報発信をしていく。また、教職員のより一層意識改革をしていくために、個々の特性に応じた教育活動について教育相談主任と連携して研修を行っていく。</p>
	保護者	⑧学校は、一人一人の特性の理解に努め、家庭と連携・協力しながら道具や工夫を取り入れ、個に応じた指導方法を積極的に取り入れている。	<p>0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%</p> <p>□① □② □③ □④ □⑤</p>	<p>学校関係者評価委員会による評価</p> <p>・教職員・保護者ともに昨年度より肯定的評価が大きく上がっていてよい。メンタルヘルスリテラシーの実践や個人面談の成果が出ていると思われる。引き続き個に応じた支援・指導を行っていただきたい。</p>
	地域	⑧学校は、一人一人の特性の理解に努め、家庭と連携・協力しながら道具や工夫を取り入れ、個に応じた指導方法を積極的に取り入れている。	<p>0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%</p> <p>□① □② □③ □④ □⑤</p>	

藤

中学校

評価結果:①そう思う ②だいたいそう思う ③あまりそう思わない  
④そう思わない ⑤わからない・無答

領域	対象	質問項目	評価結果	評価・考察
地域とともにある学校	教職員	◎私は、学校運営協議会・学校応援団の意義や保護者・地域等との活動の重要性を理解し、地域とともにある学校づくりに努めている。		<p>評価結果についての分析・課題</p> <p>◎肯定的評価 教職員…90% 保護者… 86% 地域…89% ・昨年度は教職員75%、保護者65%であったことから、今年度は肯定的評価が大きく伸びたことがわかる。ともに地域と共にある学校づくりへの参画意識が高まったことは、様々な場面での協力体制の成果であったといえる。</p>
	生徒			<p>課題解決への方策</p> <p>・より一層連携を深めていくために、積極的な情報発信と、学校運営協議会の充実、学校応援団との連携を強めていく。</p>
	保護者	◎私は、学校運営協議会・学校応援団の意義や保護者・地域等との活動の重要性を理解し、地域とともにある学校づくりに協力している。		<p>学校関係者評価委員会による評価</p> <p>・教職員の肯定的評価が大きく上がったことはよかったが、学校運営協議会について、教職員にもっと知ってもらいたい。こちらからの情報発信もしていく必要がある。生徒や学校が困っていることは、どんどん言ってもらいたい。さらに地域とともにある学校を目指していけるように連携していきたい。</p>
	地域	◎私は、学校運営協議会・学校応援団の意義や保護者・地域等との活動の重要性を理解し、地域とともにある学校づくりに努めている。		

藤

中学校

評価結果:①そう思う ②だいたいそう思う ③あまりそう思わない  
④そう思わない ⑤わからない・無答

領域	対象	質問項目	評価結果	評価・考察											
働き方改革	教職員	⑩私は、働き方改革の目的を理解し、業務改善を進め、心身ともに健康であるよう努めながら、教科指導や教育相談等に係る時間を増やし、教育の維持・向上に努めている。	<table border="1"> <caption>評価結果の割合</caption> <tr><th>評価項目</th><th>割合</th></tr> <tr><td>①</td><td>28%</td></tr> <tr><td>②</td><td>55%</td></tr> <tr><td>③</td><td>14%</td></tr> <tr><td>④</td><td>3%</td></tr> </table>	評価項目	割合	①	28%	②	55%	③	14%	④	3%	評価結果について の分析・課題	◎肯定的評価 教職員…83% ・昨年度は75%であったことから、教職員の意識はだいぶ高くなってきたことがわかる。在校時間も減ってきているが、時間削減を目的とするのではなく、生徒と向き合う時間の確保のための業務改善である視点を改めて考えていく必要がある。
	評価項目	割合													
	①	28%													
	②	55%													
③	14%														
④	3%														
生徒			課題解決への方策	・業務改善に向けた校内研修等を行い、生徒と向き合うための時間確保の視点でベクトルをそろえていく。											
保護者			学校関係者評価委員会による評価	・働き方改革は、すぐに結果が出るものではないので、長い目でみていく必要がある。その中で肯定的評価が大きく上がっているのは、これまでの取組の成果といえる。教育に関わることは先生方にしかできないが、それ以外で先生方を応援できることがあれば、ぜひ言っていたきたい。											
地域															